



2023年度農林水産省・文部科学省後援

日本農業技術検定

試験日

第1回

7/8_±

第2回

12/9_±

応募期間

第1回 4月27日(木)～ 6月2日(金)

第2回 10月2日(月)～11月2日(木)

受験級

第1回

3級

2級

第2回

3級

2級

1級



撮影協力：静岡県立静岡農業高等学校

学習の成果を発揮しよう! 進学や就職に向けて農業知識のスキル向上を!

日本農業技術検定は、農業の知識や技術の修得水準を評価して、教育研修の効果を高めることを目的とした、全国統一の農業専門の試験制度です。就農、農業系大学への進学、農業法人・関連企業への就業をめざす学生や社会人など、すでに34万人が受験しています。

高校で学び身に付けた農業の実践的知識の成果として、農業技術検定の資格取得に取り組みましょう。進学や就職に向けたスキルアップにつながり、農業の資格が将来の可能性を大きく広がります。

実施主体

日本農業技術検定協会

(事務局：一般社団法人全国農業会議所)

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3265-5140

e-mail:kentei@nca.or.jp

ホームページ

▶ <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

日本農業技術検定協会
構成団体

(一社)全国農業協同組合中央会、全国町村会、全国農業高等学校長協会、全国農業大学校協議会、全国農学系学部長会議、全国大学附属農場協議会、(公社)日本農業法人協会、(一社)全国農業改良普及支援協会、(公財)農林教育協会、(公社)国際農業者交流協会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)全国農協観光協会、(一社)農山漁村文化協会、(一社)全国農業会議所【事務局】



日本農業技術検定 概要

第1回

2023年7月8日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

応募期間

第1回 4月27日(木)~ 6月2日(金)

第2回 10月2日(月)~11月2日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

[2022年度優秀表彰団体(農業高等学校の部)]

(3級)最優秀団体:静岡県立静岡農業高等学校、優秀団体:北海道帯広農業高等学校、北海道真狩高等学校、北海道大野農業高等学校、秋田県立能代科学技術高等学校、栃木県立小山北校高等学校、千葉県立安房拓心高等学校、東京都立園芸高等学校、神奈川県立相原高等学校、神奈川県立中央農業高等学校、岐阜県立岐阜農林高等学校、静岡県立富岳館高等学校、愛知県立新城有教館高等学校、富山県立南砺福野高等学校、長野県立伊那農業高等学校、大阪府立農芸高等学校、福岡県立糸島農業高等学校、佐賀県立伊万里実業高等学校、長崎県立北松農業高等学校

(2級)最優秀団体:静岡県立静岡農業高等学校、優秀団体:北海道帯広農業高等学校、神奈川県立中央農業高等学校、岐阜県立岐阜農林高等学校、愛知県立安城農林高等学校、大阪府立農芸高等学校、兵庫県立播磨農業高等学校、兵庫県立農業高等学校

※拓殖大学北海道短期大学、酪農学園大学、秋田県立大学、高崎健康福祉大学、玉川大学、龍谷大学、東京農業大学(神奈川)、日本大学、静岡県立農林環境専門職大学、名城大学、新潟食料農業大学、信州大学、京都先端科学大学、摂南大学、鳥取大学、県立広島大学、佐賀大学、東海大学(熊本)、大分短期大学、南九州大学、宮崎大学、琉球大学、では大学生の団体受験を進めています。多くの大学では学生が元々農業経験もないため大学での農学習得の補強手段として活用されているほか、日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験に取り組んでいます。

※JA新はこだて、JA東京中央、JAマインズ、JA東京あおば、JAかながわ西湘、JA梨北、JAぎふ、JA富士伊豆、JA遠州夢咲、JA石川中央会、JA福井県中央会、JA長野中央会、JA上伊那、JA木曽、JAあづみ、JA信州諏訪、JA佐久浅間、JA信州うえだ、JAみなみ信州、JA松本ハイランド、JAこうか、JA大阪泉州、JA大阪南、JAいずみの、JA丹波ひかみ、JA兵庫六甲、JA和歌山中央会、JA香川県、JA福岡中央会、JA粕屋、JA福岡市、JA糸島、JAふくおか八女、JA柳川、JA福岡京築、JAくま、JA大分県、JAべっぴん日出、JAあいら、JAおきなわ、では営農指導力の向上や一般職員のキャリアアップを目的に団体受験を実施しています。

県連グループとして、営農指導員上級資格の要件の一つとしたり、一般職員は全員3級資格を取得する取り組みを進めるところもあります。

※本検定の上位資格は、一定の農業に関する実務的知識を習得していることの証明になります。

第2回

2023年12月9日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

受験料(税込)

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,140円	2,620円	1,570円
2級	4,190円	3,350円	2,090円
1級	5,240円	4,190円	2,620円

※複数級受験割引=学科の「3級と2級」又は「2級と1級」を同一検定日に受験の場合、受験料を1,000円割引。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1級、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、1級・2級実技試験は免除措置があります。詳しくは本検定ホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	■ 農業基礎として共通30問 ■ 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問。ただし、「環境系」は、環境共通10問と3分野(造園、農業土木、林業)の各10問から1分野選択 ■ 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: 農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	■ 農業一般として共通10問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	■ 農業一般として共通20問 ■ 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 ■ 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象: JA営農指導員・大学生	

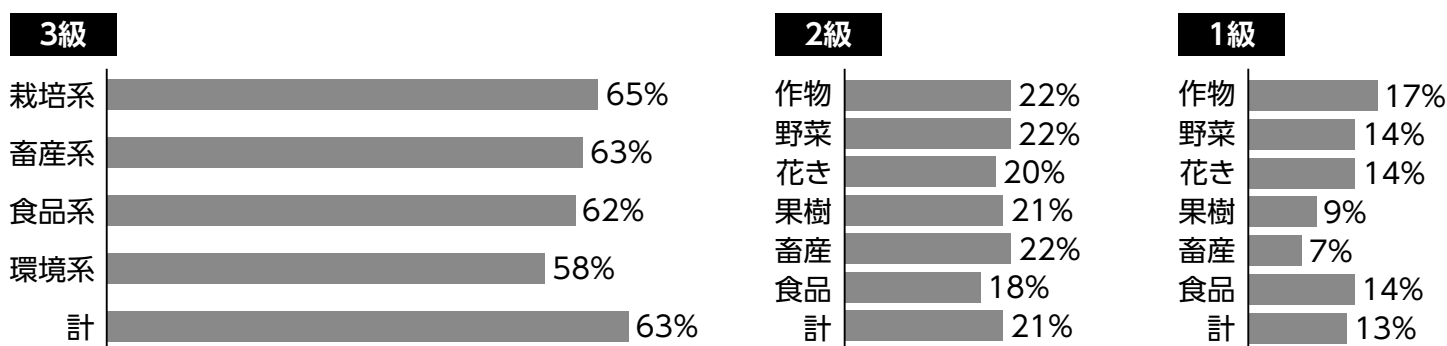
日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(2017～2022年度)

(受験者数(人)
合格率(%))

	3級	2級	1級	合計
2017年度	20,681人(56%)	5,743人(18%)	277人(6%)	26,701人(47%)
2018年度	20,521人(62%)	5,365人(20%)	247人(9%)	26,133人(53%)
2019年度	19,992人(59%)	5,311人(23%)	266人(7%)	25,569人(51%)
2020年度	18,790人(66%)	3,015人(21%)	206人(7%)	22,011人(59%)
2021年度	20,939人(66%)	5,908人(23%)	265人(5%)	27,112人(56%)
2022年度	17,932人(63%)	5,024人(21%)	243人(13%)	23,199人(54%)

②科目別合格率(2022年度)



③合格基準

[3級] 100点満点の原則60%以上

[2級] 100点満点の原則70%以上

[1級] 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証明書が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技試験免除

2級実技試験(農業機械についてのほ場での実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上を履修していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

※農業機械の実習証明に必要な講習会については、本検定ホームページをご参照ください。

②1級実技試験免除

1級実技試験(12月の1級学科試験と同日時に開催)は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。農業系の学校での、農場実習等4単位取得者又は2年以上営農実務経験を有する方は免除が可能となります。詳細は本検定ホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは
ホームページから

▶ <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>

①一般受験

個人がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

雇用就農資金支援対象の雇用就農者は、都道府県農業会議が受験者を取りまとめてインターネットで申し込む。

※受験料の振込先口座番号は受験者(団体)別になっており、毎回変わります。所定の振込口座へ、応募期間内に受験料をお振込みください。

②団体受験

学校・JA・農業法人など要件を満たす実施団体(受験者5名以上、試験会場を提供、試験官1名以上担当など)がインターネットで申し込む場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は本検定ホームページをご覧ください)

テキスト・参考書を活用して、①過去問題集を解いて出題傾向をつかむ。②過去問題集の解説やテキスト、高等学校農業用教科書で問題を確認する。③自分の苦手な領域を重点に②の確認を行う。④類似した出題もあるので過去問題集を何度も学習する—などの勉強方法も効果的です。

3級

- (1) 2023年版過去問題集3級 (発行) 全国農業会議所
*2020年度、2021年度、2022年度試験問題5回分を収録
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行) 全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版社

2級

- (1) 2023年版過去問題集2級 (発行) 全国農業会議所
*2022年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト (発行) 全国農業高等学校長協会
*2級テキストの全面改訂版は、刊行予定が決まり次第、ホームページでご案内します。
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行) 教科書出版社

1級

- (1) 1級学科試験問題…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
*2020、2021、2022年度試験問題、年度毎に実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級…参考図書例 農業関係出版社

*1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧くださいの上、日本農業技術検定協会事務局宛(kentei@nca.or.jp)にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

*テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666

2023年版
日本農業技術検定
過去問題集
(2級・3級)
好評販売中!

高校での団体受験の取り組み紹介 | 静岡県立静岡農業高等学校

農場体験を基礎にした学習で農業知識の向上図る

静岡県立静岡農業高等学校は、2022(令和4)年度の受験実績が認められ、本検定の優良団体表彰において2級と3級の2部門(それぞれ高等学校の部)で最優秀校に選ばれました。

同校では、1学年の「農業と環境」の授業の一環として生徒自らが1人で学校の畑(約2坪)を管理し、毎朝、自分の圃場の観察記録をつけて作物の育成、農業生産の実態を身をもって体験することで、農業理解の土台をつくり学校3年間の学習効果を高めることにつなげています。

また、2年次からの「課題研究」では、生徒一人一人が自らの進路活動と一体的に取り組み、大学や専門学校等に進学する生徒が多

いこともあり、とくに進学に有利な資格取得に力を入れています。スマート農業に関連した情報処理検定をはじめ、日本農業技術検定3級にも2年生の約8割が7月検定を受験して、日頃の学習成果の証しとなるように活用しています。

本検定の受験にあたっては、3級テキストからポイントとなるキーワードを重点に理解するように授業でも取り上げ、受験近くなると3級過去問題集を解いて解説を確認して取り組み、授業以外でも生徒が意欲的に勉強する環境を整えている学科もあります。

進路活動で大学進学等を希望して本検定の2級受験をめざす生徒には、5択形式など難易度の高い問題に慣れるためにも2級過去問題集を繰り返し確認するよう指導し、最新の試験問題も配付して、2級テキストを活用した自主的な学習を支援することにより、学校全体としての実績を高めています。

私達も応援しています! — 日本農業技術検定への協賛企業・団体



日本農業技術検定に関するお問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局: 一般社団法人 全国農業会議所)

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3265-5140 e-mail:kentei@nca.or.jp